

ふじのみや探検

かざまつりがわ

第1号

風祭川のひみつ（富丘地区）



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1 なぜ「風祭川」っていうの？

むかし、この川で「風祭」のお祭り(=神事)が行われました。

「風祭」とは、風をしずめ、五穀豊穰を願うお祭りです。そのため、この川を「風祭川」と呼ぶようになりました。川の中には、いくつかの石があり、ここを『祭壇』として祈り続けてきました。

このお祭りは、古くから続いていましたが、今はやらなくなってしまいました。祭司を任されていた、宮崎家には、古文書や宝剣が残されています。

ことばの説明

風をしずめる・・・立春(2月3日か4日頃)から数えて210日目(9月1日頃)を二百十日といひ、イネの開花の時期になります。このころ台風が多く来て、田畑に被害を及ぼしました。「どうか、風や雨で作物がだめになりませんように」と祈りました。

五穀豊穰・・・5種類の穀物、イネ・ムギ・アワ・キビ・マメを指します。それらが、豊かに実ること、豊作。

祭壇・・・祭りをを行うために周りより、1段高かった場所

古文書・・・昔の人が書きのこした記録

宝剣・・・宝として大切にされる貴重な剣



ひみつ2 「風祭」が行われたのは何時代？

宮崎家の宝剣には「純鉤亭」という名前が付いています。下の写真のように宝剣には、刀の両方に刃が付いています。

江戸時代の古文書には、おとろえてしまった「風祭」をまごころをこめて行うこと、祭りをを行う費用は、近くの村々から5両出すことが書かれています。寄付金も多く集まり、祭りの道具も作られました。

それより古い文書にも風祭について書かれています。つまり、「風祭」は室町時代から、盛大に行われていました。

ことばの説明

純鉤亭・・・昔の中国(=越の国)の王様がつけた宝剣の名前(=純鉤)をもらってつけた。

江戸時代・・・1600年、徳川家康が征夷大将軍になる。1867年、政治を天皇にかえした。坂本龍馬も活躍しました。

5両・・・今の8万円ぐらい

室町時代・・・1338年に足利尊氏が征夷大将軍になる。1573年、室町幕府滅ぶ。一休さんもいました。



宝剣「純鉤亭」

ひみつ3

風祭川の石はどうなっているの？

風祭川は、富丘小学校の北を流れ、河合橋をすぎた所で潤井川に合流します。橋の上から上流を見ると、風祭川の中央に大きな岩があります。これが「拝石」です。

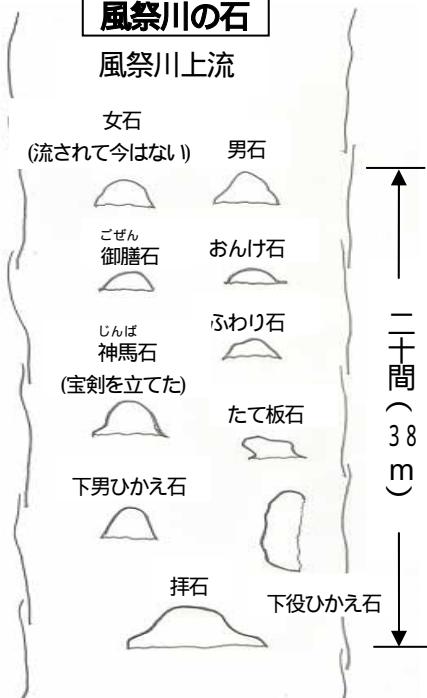
昔は、拝石から、二十間の間に、十個の石がありました。これらの石を使って、「風祭」が行われました。

残念ながら、女石は洪水によって流され、今はありません。

ことばの説明

二十間・・・38m

風祭川の石



ひみつ4

風祭川はどこからどこまで？

風祭川は、富士山の南側を流れています。富士山からの沢が10本集まって風祭川となります。

風祭川と呼ばれるようになるのは、宮原の宮沢橋から、潤井川に合流する所までです。風祭川の全長は、1.9kmになります。

ことばの説明

沢・・・山間の源流に近い谷川

宮沢橋・・・富士宮市宮原280の橋(県道 朝霧・富士宮線)

風祭川の位置



風祭の行われた場所



ひみつ5

風祭川にはどんな災害があったの？

風祭川や潤井川では、昔からたびたび災害がおこりました。そのたび風や雨は、田畑や家に大きな被害をもたらしました。富士宮市史の中から、潤井川流域の災害を見てみましょう。

風祭川では、2008年より護岸工事が始まりました。風祭川の石や、祭壇跡もきれいになりました。今では、災害の心配もなくなりました。

私たちは、これからも地域に残るこれらの史跡やお祭りを大切にしたいものです。

ことばの説明

災害・・・台風や洪水によって引き起こされる災いや被害。

氾濫・・・川の水が堤防からあふれでること。

洪水・・・大雨や雪解け水で川の水があふれ出すこと。

護岸工事・・・川の堤防をしっかりと作り、水害からまわりの田畑や家を守ること。

史跡・・・歴史に関する場所。



潤井川流域の災害

年	できごと
1828年6月 (文政11年)	大洪水により神田川が氾濫した。
1851年6月 (嘉永4年)	大暴風雨により家がたくさん流された。農作物もほとんど全滅した。
1884年2月 (明治17年)	大暴風雨により大災害を受けた。
1907年7月 (明治40年)	大暴風雨により芝川・潤井川・神田川が氾濫した。道路や橋も多く壊れた。
1908年7月 (明治41年)	多くの川が氾濫して、橋や家が流された。死者11名。
1934年9月 (昭和9年)	室戸台風で多くの橋が流され、木が倒された。
1935年9月 (昭和10年)	300ミリ以上の大雨で川が氾濫した。
1938年6月 (昭和13年)	台風の影響で8日間大雨が降った。最高雨量605ミリ。
1941年5月 (昭和16年)	大雨と富士山の雪解け水とが重なって潤井川の水があふれた。田畑に大きな被害があった。
1945年10月 (昭和20年)	台風により多くの川の水が増え、潤井川の堤防が壊れた。雨量480ミリ。
1949年10月 (昭和24年)	風水害により身延線が不通になった。

『第1号・風祭川のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 『富士の研究 浅間神社の歴史』 浅間神社社務所 宮地亘一・廣野三郎 / 著 1929
- 『富士宮市史 下巻』 富士宮市史編纂委員会 / 富士宮市 1986
- 『風祭りの神事に関する古文書集』 ふるさとの歴史をたずねる会
- 『青木区誌』 青木区誌編纂委員会 / 青木区 1998
- 『淀師区誌』 淀師区編纂委員会 / 淀師区 2000
- 『富丘村誌』 富士郡富丘村
- 『月の輪 第二号』 富士宮市郷土史同好会 / 「壇跡風祭之事」 早川政義 / 著 1987
- 『月の輪 第二号』 富士宮市郷土史同好会 / 「風祭遺跡」 佐野忠男 / 著 1987
- 『潤井川流路土』 富士砂防事務所 1993
- 『静岡県河川指定調査』 県土木河川課 1996
- 『富士宮 - 中学校社会科地域学習資料 - 』 平成19年度版富士宮市教育委員会 2007
- 『歴史を旅した石たち シリーズ137「風祭川と祭祀石」』 沢田政孝 / 著 1997





かざまつりがわ 風祭川 「歩く博物館」



かざまつりがわ 風祭川 さいだんあと祭壇跡



富丘小にある風祭川の説明



おがみいし 拝石



じんばいし 宝剣を立てた神馬石



うるいがわ かざまつりがわ 潤井川に流れ込む風祭川